

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年11月11日

【四半期会計期間】 第9期第2四半期
(自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)

【会社名】 サクサホールディングス株式会社

【英訳名】 SAXA Holdings, Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 越川雅生

【本店の所在の場所】 東京都港区白金一丁目17番3号 NBFプラチナタワー

【電話番号】 (03)5791-5517

【事務連絡者氏名】 経理部長 井上洋一

【最寄りの連絡場所】 東京都港区白金一丁目17番3号 NBFプラチナタワー

【電話番号】 (03)5791-5517

【事務連絡者氏名】 経理部長 井上洋一

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次		第8期 第2四半期 連結累計期間	第9期 第2四半期 連結累計期間	第8期
会計期間		自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日	自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高	(百万円)	21,764	17,661	42,896
経常利益	(百万円)	410	143	1,030
四半期(当期)純利益又は 四半期(当期)純損失()	(百万円)	143	64	289
四半期包括利益又は 包括利益	(百万円)	202	37	230
純資産額	(百万円)	22,653	22,848	22,993
総資産額	(百万円)	44,615	41,904	43,397
1株当たり四半期(当期) 純利益金額又は 1株当たり四半期(当期) 純損失金額()	(円)	2.37	1.06	4.77
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	50.3	54.2	52.7
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	2,965	1,078	2,286
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	938	1,212	2,202
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	657	568	1,364
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	9,991	6,637	7,342

回次		第8期 第2四半期 連結会計期間	第9期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日	自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	3.32	1.95

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
 2 第8期および第9期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 3 第8期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 4 第8期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社および当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われていません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当第2四半期連結会計期間の末日現在において当企業グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間のわが国の経済においては、東日本大震災の影響によりサプライチェーンの混乱、電力不足による生産活動の低下や自粛ムードなどが起こりましたが、経済活動は徐々に回復に向かっております。一方で、欧州の財政問題や米国景気の減速懸念に加え、円高や株安など先行きの不透明感が増してまいりました。

当企業グループは、中期経営戦略に掲げました「経営基盤の強化」と「事業の拡大」に継続して取り組むとともに、東日本大震災の影響を最小化すべく努力してまいりましたが、原材料の調達問題の影響による生産の減少や受注の遅れを挽回するには至りませんでした。事態は解消してきており、今後とも継続して挽回策に取り組んでまいります。

「経営基盤の強化」につきましては、安定した収益体質を構築するため、平成23年4月1日付でグループ内サービス機能を持つ2社を統合いたしました。また、東日本大震災による電力不足に対応するためシフト制の生産体制によって、その影響を最小限にとどめるとともに、業務の効率化と総原価の低減に努めてまいりました。

「事業の拡大」につきましては、当企業グループのコアコンピタンスであるネットワーク技術、ビジュアル技術、セキュア技術を融合させた商品の開発を継続的に進め、お客様視点に立った安心、安全、快適、便利を実現するソリューションの提供を目指してまいりました。その一環として、モバイル連携を強化したフルIPキーテレホンシステム「Agrea MP1000」とオフィスの利便性を向上させるスマートフォン連携アプリケーション「Mobile EX」を提供したことに加え、東日本大震災以降、要求の高まっている電力や温度の見える化、高齢者の見守りなどを実現させるために、電池で動作し複数センサ機能を備えた低消費電力無線LANセンサ「WL100」を開発し、サンプル販売を開始いたしました。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、東日本大震災の影響による原材料の調達問題から生産の減少や受注の遅れが発生したことなどにより176億6千1百万円(前年同期比 18.9%減)となりました。利益面では、総原価の低減に努めてまいりましたが、経常利益が1億4千3百万円(前年同期比 65.1%減)、四半期純利益が6千4百万円(前年同期純損失 1億4千3百万円)となりました。

分野別の営業の概況は、次のとおりであります。

(ネットワークソリューション分野)

ネットワークソリューション分野の売上高は、94億3千2百万円(前年同期比 3.5%減)となりました。これは、キーテレホンシステムが減少したことによるものです。

(セキュリティソリューション分野)

セキュリティソリューション分野の売上高は、82億2千9百万円(前年同期比 31.4%減)となりました。これは、加工受託している部品が減少したことによるものです。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ7億4百万円減少し、66億3千7百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の計上に加え、減価償却費の計上、売上債権の減少などにより10億7千8百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、新商品の開発に伴うソフトウェアおよび金型の取得などにより12億1千2百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長短借入金の返済および社債の償還ならびに配当金の支払いなどにより5億6千8百万円の支出となりました。

(3) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業上および財務上の対処すべき課題はありません。

当企業グループは、前事業年度の有価証券報告書に記載の対処すべき課題に継続して取り組んでまいります。

(株式会社の支配に関する基本方針)

平成22年4月30日開催の当社取締役会において、平成19年5月24日開催の当社取締役会において定めた、会社法施行規則第118条第3号における、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針ならびに基本方針の実現に資する特別な取組みの一部改定を決議するとともに、基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みとして「当社株式の大量取得行為に関する対応策(買収防衛策)」(以下改定後のものを「本ルール」といいます。)の導入(更新)を平成22年6月29日開催の第7回定時株主総会で決議いたしました。

当社の財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社は、株主は市場での自由な取引を通じて決まるものと考えております。したがって、株式会社の支配権の移転を伴う買付提案に応じるかどうかの判断も、最終的には株主全体の意思に基づき行われるべきものと考えております。

しかし、当社株式の大量取得行為またはその申し入れの中には、次のものも想定されます。

- a. 買収の目的や買収後の経営方針等に鑑み、当社のグループ企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれがあるもの
- b. 株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの
- c. 当社に、当該買付けに対する代替案を提示するために合理的に必要な期間を与えることなく行われるもの

- d. 当社株主に対して、買付内容を判断するために合理的に必要とされる情報を十分に提供することなく行われるもの
- e. 買付けの条件等（対価の価額・種類、買付けの時期、買付けの方法の適法性、買付けの実行の可能性等）が当社の本源的価値に鑑み、著しく不十分または不適当なもの

このような当社株式の大量取得行為またはその申し入れを行う者は、例外的に、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者として不適切な者と考えています。このような行為から当社の经营理念やブランド、株主をはじめとする各ステークホルダー（利害関係人）の利益を守るのは、当社の経営を預かるものとして当然の責務であると認識しております。

基本方針の実現に資する特別な取組み

当企業グループは「独創的な技術を核に、新しい価値を創造し、活力とゆとりある社会の発展に貢献する」ことを经营理念に掲げ、ネットワークソリューション分野およびセキュリティソリューション分野の主力市場において、事業の選択と集中を進めており、次世代ネットワークなどに対応した両分野の融合商品を早期に開発、販売するための取組みを推進してまいりました。

また、当企業グループは、『業績の早期回復』と『成長軌道への回帰』を果たすため、より良いサービスを創造するために、オープン・イノベーションの考え方を取入れ、お客様の視点に立った安心、安全、快適を実現するソリューションをタイムリーに提供することを経営戦略の基本方針として、事業の拡大および経営基盤の強化に取り組んでおります。

さらに、企業グループの総合力を高めるため、引き続きコーポレート・ガバナンスの強化とグループ企業価値の向上に努めてまいります。

基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、平成22年6月29日開催の第7回定時株主総会において本ルールを株主の皆様のご承認をもって導入（更新）いたしました。

本ルールは、当社株式の大量取得行為が行われる際に、当社が本ルールに定める対応を行うことにより、濫用的な買付行為を抑止し、当社のグループ企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、または向上させることを目的としています。

本ルールは、次の または に該当する買付けまたはその申し入れ（以下あわせて「買付け等」といいます。）がなされる場合に、買付け等を行う買付け者および買付提案者（以下「買付者等」といいます。）に対し、事前に当該買付け等に関する情報の提供を求め、当該買付け等について情報収集、検討等を行うために合理的に必要な期間を確保したうえで、株主の皆様に当社経営陣の意見表明や代替案を提示したり、買付者等との交渉等を行っていくための手続きを定めています。

- a. 当社が発行者である株券等について保有者の株券等の株券等保有割合の合計が20%以上となる買付け
- b. 当社が発行者である株券等について、公開買付けに係る株券等の株券等所有割合およびその特別関係者の株券等所有割合の合計が20%以上となる公開買付け

本ルールの詳細は、当社のインターネットウェブサイト

(<http://www.saxa.co.jp/ir/stock/information.html>) をご参照ください。

具体的な取組みに対する当社取締役会の判断およびその理由

当社取締役会は、基本方針の実現に資する具体的な取組みは、以下の事項を考慮し織り込むことにより、基本方針に沿うものであり、株主共同の利益を損なうものではなく、役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

- a. あらかじめ買収防衛策を導入することにより、濫用的な買付行為を抑止すること
- b. 株主の皆様の意思を法的に明確な形で反映させるため、買収防衛策の導入の決定を株主総会の決議事項とし、株主総会の決議を経て買収防衛策を導入すること
- c. 防衛策発動に関して基本方針に沿った合理的、客観的要件が設定されていること
- d. 独立性の高い独立委員会の設置および防衛策発動の際には必ず独立委員会の判断を経ることが必要とされていること
- e. 本ルールの有効期限が平成25年3月期に関する定時株主総会終結の時までとし、株主総会または取締役会によりいつでも廃止できること

(4) 研究開発活動

当企業グループは、お客様視点に立った安心、安全、快適、便利を実現するソリューションを提供するために必要となるビジュアル技術、ネットワーク技術、セキュア技術を高度化するための研究開発に継続して取り組んでまいりました。

なお、当第2四半期連結累計期間の研究開発費総額は、24億7千8百万円となりました。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因および経営戦略の現状と見通し

当企業グループの主力市場である情報通信ネットワーク関連市場においては、光ネットワークをはじめとしたブロードバンド化の進展に伴い、多様化、高度化したネットワークを活用した様々な事業が生まれるなど大きな変化が続いております。

当企業グループは、引き続き「経営基盤の強化」と「事業の拡大」の諸施策に継続して取り組み、お客様視点に立った安心、安全、快適、便利を実現するソリューションをタイムリーに提供し続けることを目指してまいります。

(6) 資本の財源および資金の流動性についての分析

当企業グループは、運転資金および設備投資資金につきましては、内部資金を充当し、必要に応じ金融機関からの借入により調達することとしております。このうち借入による資金調達に関しましては、運転資金については主に期限が1年以内の短期借入金により調達しており、設備投資資金等については長期借入金等により調達しております。

また、資産効率の向上、営業活動によるキャッシュ・フローの確保およびシンジケーション方式によるコミットメントライン70億円の活用により、当面の運転資金および設備投資資金を調達することが可能と考えております。

(7) 経営者の問題意識と今後の方針について

当企業グループが関連する情報通信ネットワーク関連市場は、急速な技術革新と競争の激化などによりめまぐるしく変化する環境下にあります。当企業グループは、このような変化に柔軟に対応し、現在の事業環境および入手可能な情報に基づき、最善の経営戦略を立案するよう心がけております。

具体的には、前事業年度の有価証券報告書の対処すべき課題に記載のとおりであり、それらの課題に継続して取り組んでまいります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	240,000,000
計	240,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年11月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	62,449,621	62,449,621	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 1,000株であります。
計	62,449,621	62,449,621		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年9月30日		62,449,621		10,836		3,000

(6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
沖電気工業株式会社	東京都港区虎ノ門1-7-12	6,060	10.0
日本電気株式会社	東京都港区芝5-7-1	6,060	10.0
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区内幸町1-1-5	2,339	3.8
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2	1,767	2.9
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	1,404	2.3
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	1,374	2.2
シービーエヌワイ デイエフエイ インターナショナル キャップ バリュウ ポートフォリオ (常任代理人 シティバンク銀行 株式会社)	388 GREENWICH STREET, NY, NY 10 013, USA (東京都品川区東品川2-3-14)	1,140	1.8
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	959	1.5
みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区八重洲1-2-1	900	1.4
サクサグループ従業員持株会	東京都港区白金1-17-3 NBFプラ チナタワー	842	1.3
計		22,847	37.7

- (注) 1 当社は、自己株式1,924千株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。
- 2 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、発行済株式の総数から自己株式数を控除して計算しております。
- 3 沖電気工業株式会社の所有株式数には、沖電気工業株式会社が退職給付信託の信託財産として拠出している当社株式6,059千株を含んでおります。(株主名簿上の名義は、「みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 沖電気工業口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社」であります。)
- 4 株式会社みずほ銀行の所有株式数には、株式会社みずほ銀行が退職給付信託の信託財産として拠出している当社株式1,778千株を含んでおります。(株主名簿上の名義は、「みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社」であります。)

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,924,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 59,550,000	59,550	
単元未満株式	普通株式 975,621		単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	62,449,621		
総株主の議決権		59,550	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が3,000株(議決権3個)含まれております。
- 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式が843株含まれております。
- 3 「総株主の議決権」欄の議決権の数には、株式会社証券保管振替機構名義の議決権の数が3個含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) サクサホールディングス 株式会社	東京都港区白金一丁目17番 3号 NBFプラチナタワー	1,924,000		1,924,000	3.08
計		1,924,000		1,924,000	3.08

- (注) 上記のほか、サクサ株式会社(連結子会社)が所有する株式5,000株(議決権5個)について、株主名簿上は、同社名義となっておりますが、当該株式は、同社が実質的に所有していない株式です。
- なお、当該株式は、上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」および「総株主の議決権」欄に含めております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)および第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,380	6,639
受取手形及び売掛金	8,938	7,759
商品及び製品	2,018	2,829
仕掛品	852	786
原材料及び貯蔵品	3,094	3,526
繰延税金資産	1,099	1,115
その他	783	636
貸倒引当金	18	17
流動資産合計	24,149	23,276
固定資産		
有形固定資産		
土地	8,745	8,669
その他(純額)	2,840	2,634
有形固定資産合計	11,585	11,303
無形固定資産		
ソフトウェア	3,438	3,463
のれん	211	195
その他	140	114
無形固定資産合計	3,790	3,773
投資その他の資産	3,842	3,531
固定資産合計	19,218	18,608
繰延資産	28	19
資産合計	43,397	41,904

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,455	5,537
短期借入金	2,240	2,112
1年内償還予定の社債	412	1,196
未払金	851	444
未払費用	1,295	1,245
未払法人税等	505	263
未払消費税等	213	119
製品保証引当金	318	316
役員賞与引当金	32	25
その他	535	566
流動負債合計	11,860	11,828
固定負債		
社債	1,316	217
長期借入金	1,696	1,760
繰延税金負債	1,082	860
退職給付引当金	2,903	3,062
役員退職慰労引当金	65	40
負ののれん	817	681
その他	661	604
固定負債合計	8,543	7,227
負債合計	20,403	19,055
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,836	10,836
資本剰余金	6,331	6,331
利益剰余金	7,038	6,921
自己株式	1,117	1,118
株主資本合計	23,088	22,971
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	242	270
為替換算調整勘定	7	7
その他の包括利益累計額合計	235	263
少数株主持分	139	140
純資産合計	22,993	22,848
負債純資産合計	43,397	41,904

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
 【四半期連結損益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	21,764	17,661
売上原価	15,744	12,246
売上総利益	6,019	5,414
販売費及び一般管理費	1 5,436	1 5,207
営業利益	583	206
営業外収益		
受取利息	2	1
受取配当金	38	36
負ののれん償却額	136	136
その他	28	26
営業外収益合計	205	200
営業外費用		
支払利息	52	39
退職給付会計基準変更時差異の処理額	150	150
為替差損	128	38
その他	46	35
営業外費用合計	378	264
経常利益	410	143
特別利益		
固定資産売却益	0	-
投資有価証券売却益	-	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除却損	22	17
固定資産売却損	1	18
投資有価証券売却損	1	-
投資有価証券評価損	415	29
貸倒引当金繰入額	-	0
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	3	-
特別損失合計	445	66
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	34	77
法人税、住民税及び事業税	162	250
法人税等調整額	43	239
法人税等合計	119	11
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	153	66
少数株主利益又は少数株主損失()	9	1
四半期純利益又は四半期純損失()	143	64

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	153	66
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	48	28
繰延ヘッジ損益	0	-
その他の包括利益合計	49	28
四半期包括利益	202	37
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	192	36
少数株主に係る四半期包括利益	10	1

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	34	77
減価償却費	1,252	1,202
のれん償却額	34	16
負ののれん償却額	136	136
貸倒引当金の増減額(は減少)	11	2
退職給付引当金の増減額(は減少)	364	159
前払年金費用の増減額(は増加)	-	310
製品保証引当金の増減額(は減少)	13	2
役員賞与引当金の増減額(は減少)	-	7
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	27	25
受取利息及び受取配当金	40	38
支払利息	52	39
為替差損益(は益)	5	1
社債発行費償却	10	9
投資有価証券売却損益(は益)	1	0
投資有価証券評価損益(は益)	415	29
固定資産売却損益(は益)	1	18
固定資産除却損	22	17
売上債権の増減額(は増加)	1,238	1,179
たな卸資産の増減額(は増加)	596	1,176
仕入債務の増減額(は減少)	403	80
その他	70	307
小計	3,040	1,445
利息及び配当金の受取額	40	38
利息の支払額	55	42
法人税等の支払額	59	362
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,965	1,078

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	-	36
有形固定資産の取得による支出	153	175
有形固定資産の売却による収入	0	56
無形固定資産の取得による支出	794	1,122
投資有価証券の取得による支出	5	13
投資有価証券の売却による収入	14	5
その他	-	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	938	1,212
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額（は減少）	-	200
長期借入れによる収入	200	480
長期借入金の返済による支出	620	344
社債の償還による支出	235	313
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	0	179
その他	0	10
財務活動によるキャッシュ・フロー	657	568
現金及び現金同等物に係る換算差額	5	1
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,364	704
現金及び現金同等物の期首残高	8,626	7,342
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,991	6,637

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
(追加情報) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更および過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)および「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
1 受取手形裏書譲渡高 278百万円	1 受取手形裏書譲渡高 142百万円
2 資産の金額から直接控除している 貸倒引当金の額 投資その他の資産 259百万円	2 資産の金額から直接控除している 貸倒引当金の額 投資その他の資産 258百万円

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
1 販売費及び一般管理費の主な内訳は次のとおりであります。 給料賃金 1,229百万円 従業員賞与手当金 445百万円 退職給付費用 360百万円 役員退職慰労引当金繰入額 14百万円 減価償却費 197百万円 製品保守費 150百万円 製品保証引当金繰入額 13百万円	1 販売費及び一般管理費の主な内訳は次のとおりであります。 給料賃金 1,274百万円 従業員賞与手当金 430百万円 役員賞与引当金繰入額 26百万円 退職給付費用 324百万円 役員退職慰労引当金繰入額 10百万円 減価償却費 207百万円 製品保守費 130百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金及び預金勘定 9,027百万円 預入期間が3か月を超える 定期預金 36百万円 現金同等物に含める有価証券 999百万円 現金及び現金同等物 <u>9,991百万円</u>	1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金及び預金勘定 6,639百万円 預入期間が3か月を超える 定期預金 1百万円 現金及び現金同等物 <u>6,637百万円</u>

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	181	3	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

当企業グループは、情報通信システムの機器および部品の開発、製造および販売ならびにこれらに付帯するサービスの提供からなる事業を行っており事業区分が単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

当企業グループは、情報通信システムの機器および部品の開発、製造および販売ならびにこれらに付帯するサービスの提供からなる事業を行っており事業区分が単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額または四半期純損失金額()および算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額()(円)	2.37	1.06
(算定上の基礎)		
四半期純利益又は 四半期純損失()(百万円)	143	64
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益又は 四半期純損失()(百万円)	143	64
普通株式の期中平均株式数(千株)	60,724	60,525
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	重要な変動はありません。	重要な変動はありません。

(注) 1 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月11日

サクサホールディングス株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	今	井	靖	容
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	田	村	保	広
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	佐	藤	晶	

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているサクサホールディングス株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、サクサホールディングス株式会社及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。